



JSQC ニュース

No.338

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 英文電子ジャーナルTotal Quality Science発刊
- 2-私の提言 ISO9001の改訂を機に、QMSの有効活用を改めて考える
- 2-ルポルタージュ 第376回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第377回関西事業所見学会ルポ/論文募集/9月の入会者紹介/事務局からのお知らせ
- 4-ANQ総会発表申込み投稿管理システム開設のお知らせ/行案内/新規研究会募集

英文電子ジャーナルTotal Quality Science 発刊

筑波大学 山田 秀

1. 発刊のねらいと掲載プラットフォーム

2015年に日本品質管理学会から、英文電子ジャーナル「Total Quality Science」を発刊する。この英文電子ジャーナルでは、Asian Network for Quality (ANQ) の年次総会 (congress) における優れた研究発表をもとに、加筆、修正、審査を経たものを、論文として掲載する。品質管理に関する理論、実践例などの積極的な海外発信の機会となることを期待している。

本誌は、独立行政法人科学技術振興機構 (Japan Science and Technology Information Agency) が提供している総合電子ジャーナルプラットフォームであるJ-STAGEに掲載する。このプラットフォームには、様々な分野の国内の和文誌、英文誌が掲載さ

れている。2014年12月現在、和文、英文合わせて1800を超える雑誌が掲載されている。Total Quality Science誌の表紙は下のとおりである。

2. ANQ総会との連携

ANQ年次総会は、2002年から開催されていて、JSQCから毎年40~50件程度の発表がされている。これらの発表には、有益な論文が多数含まれている。それらは、会議参加者にCD-ROMとして配布されるにとどまっておらず、国際発信の上で大きな損失である。そこで2013年9月に、科学研究費国際情報発信強化 (B) に、「総合的品質管理の理論・実践に関する学術的論文の電子ジャーナルによる発信」という課題で採択された。発刊の初期費用は、この科学研究費に支えていただいている。

3. Total Quality Scienceへの掲載と発行予定

従来のANQでの発表申し込み、審査手続きは次の(1)から(5)である。

- (1) ANQ総会発表申込み。A4で2ページまでの要旨を提出
- (2) 要旨の審査による順位付け
- (3) 審査通過者 (口頭、ポスター) によるフルペーパー提出
- (4) フルペーパーの審査による順位づけ
- (5) 優秀賞の表彰

Total Quality Scienceへの掲載に向け、(6)から(10)を追加している。

- (6) フルペーパー評価上位者に投稿の呼びかけ
- (7) 著者による改訂稿の提出
- (8) 複数の審査者による改訂稿の審査
- (9) 著者による審査意見に基づく改訂
- (10) 十分な対応ができたものを掲載
従来の(1)から(5)で上位に評価された発表の中で、発表時の討論などをもとに投稿された論文に対し、(6)から(10)で複数の査読者による審査を実施し、掲載を決定する。

Total Quality Scienceの第1巻は、2015年4月頃に発刊予定である。これは、2014年8月にシンガポールで開催されたANQ総会での研究発表に対し、(6)から(10)を導入している。

また2015年に台北で開催されるANQ総会からは、上記の(1)から(10)について電子投稿管理システム

www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270922

により論文の受け付け、審査をする。電子投稿管理システムは2015年2月9日から運用開始予定。ANQ Congress 2015 Taipei での発表申込みは、このシステムからのみ受け付ける。

品質管理の理論と実践の国際発信を促進するべく、積極的な発表申込み、投稿をお待ちしています。



● 私の提言 ●

ISO9001の改訂を機に、
QMSの有効活用を改めて考える

(独)製品評価技術基盤機構 認定センター 客員調査員 住本 守



ISO9001が本年秋に改訂される見通しです。今回の改訂の特徴は、マネジメントシステム規格に共通の上部構造及びテキストをベースにしていることです。このため、従来のISO9001では省略されていた考慮事項が要求事項として、例えば、箇条4の「組織の状況」で、品質マネジメントシステム(QMS)の組織の能力に影響する内部及び外部の課題を明確にし、箇条6の「品質マネジメントシステムに関する計画」でこれらの課題を考慮するなど、明確に表現

されています。要求事項の内容が大きく変わった訳ではないので、認証維持にしか興味のない組織にとっては、何が変わったか判り難しくなっており、「大きく変わった」いや「変わっていない」と意見が分かれている所です。一方、品質パフォーマンスを向上するためにQMSを構築した組織では、QMSの有効活用を今回改定の明確なメッセージと受け止め、組織が自身で構築するQMSの目的を再確認し、構築したQMSをお飾りではなく、実際の業務プロセスに確実に展開することにより有効活用を促進する好機と捉えています。

ISO9001は、顧客満足を促進するためのフレームワーク(What)を提供

しており、提示されたフレームワークの下でどのような活動を行うか(How)については規定していません。ISO9001の有効活用を真剣に考えるならば、どのような活動を展開するかを問う必要があります。ISO9001と違ってTQMは、組織がその企業形態や経営環境に適したQMSを実践するための方法論を示しています。TQMの活動要素である方針管理、日常管理、プロセス保証などは、QMSの基盤の構築に不可欠な内容を網羅しており、ISO9001に基づき構築されたQMSの有効活用を改めて考える際には、これらTQMの活動要素を取り入れるのが最適と思います。特に、よく耳にするQMSを構築しても、重要な部分が曖昧であったり、決められた通り仕事が行われなかったりすることで問題が多発する組織では、日常管理の徹底が重要です。具体的にどうするかは2013年5月に制定したJSQC Std 32-001「日常管理の指針」を参考にすることをお勧めします。

第376回
事業所見学会
ルポKYBにおける油圧技術の
歴史とモノづくり

平成26年11月5日(水)、第376回事業所見学会がKYB(株)相模工場にて12名参加で開催された。KYBは自動車、油圧機器、新幹線、航空機、免制震装置などの油圧技術を核とした製品を提供しており、平成27年に創立80周年を迎える歴史がある。

見学会の内容は、説明、史料館見学、工場見学、質疑応答の4点セットであり、非常に充実したものであった。

まず、小集団活動、作業チェックポイント、安全衛生、人財育成などについての説明があった。

小集団活動は、メンバーの自主的な活動にとどめず、上司の強い支援を伴った業務の一環として行うことにより、リードタイム50%削減(LT50)などの業績貢献を意識した活動になっているとのことであった。

作業チェックポイントは、品質、作業手順や段取りのチェックだけでなく、教育・フォローにも活用して

いるとのことであった。工場見学時に、各ラインですぐに取り出しやすい場所に格納されており、有効活用されている様子が確認できた。

安全衛生では、OSHMS、安全衛生パトロールなどに取り組み、建屋内でフォークリフトを使用していないとのことであった。工場見学時に、電動アシスト台車が使用されていたり、工場内の油污れがなく、清潔に保たれている様子が確認できた。

人財育成では、PDCAや2S(整理、整頓)などの当たり前のことをやるだけでなく、自らおかしきことに気づき、改善していくといった「人」の意識に働きかけることを重視しているとのことであった。

史料館見学では、当時の技術水準の高さを物語る零戦の主脚(オレオ)や油圧機器などの製品の歴史を一通り学ぶことができた。

質疑応答も活発に行われ、突っ込んだ質問にも丁寧にご回答いただいた。最後に、ご多忙の中、非常に充実した見学会をご提供いただいたことに、関係者の方々には深く感謝を申し上げます。

佐々木 一仁 (インフォコム(株))

第377回関西 事業所見学会 ルポ

関西発の航空イノベーション Peachの挑戦～「低運賃」と 「高品質」の実現に向けて～

平成26年11月12日(水)に、第377回事業所見学会が関西国際空港のPeach Aviation(株)にて、23名の参加で開催された。Peachは2012年3月に就航した日本初の本格的LCC (Low Cost Carrier) で、唯一の関西を拠点としたアジアのリージョナルエアラインである。

前半は、Peachのあゆみ、ANAやJALのようなフルサービスキャリアとLCCの違い、Peachのサービスモデルを紹介して頂いた。LCCはLow Costであって、安全やサービスを軽視したLow Priceではない。安全を第一と考え、ターゲット顧客を明確にし、LCCならではの様々な工夫によって顧客満足の向上と低価格化を実現されていた。例えば、全機材をA320の新造機として安全性を確保しつつ保守費用を削減していることや、初便就航行事にはテープカットではなくハイタッチでお客様を迎えたり、社員による道頓堀クルーズは

メディアでも取り上げられ、ご存知の方も多だろう。客室乗務員もカウンターサービスを行ったり、機内清掃をするなど社員一丸となって取り組まれていた。

後半は、LCC専用ターミナルである関西空港第2ターミナルを見学させて頂いた。まず目に入ったのはチェックインカウンターのある建屋に天井がないことである。屋根がむき出しではあるが、開放感が高く、一部ガラス張りのため照明の節電にもなっている。駐機場ではジェット機の自走出発を見学した。飛行機をバックするための牽引車(トローイングカー)が不要となり、コストダウンと時間短縮を両立している。

Peachは安全と品質を確保しつつ、徹底的に無駄を省き、創意と工夫で低運賃に挑戦し続けられている。これらの工夫や改善は社員達による提案が多く、明るく活発な社風であり、Peachに乗りたい、Peachで働きたいと感じた。

最後に、ご多忙中のところご対応頂いたPeach Aviation(株)の三村所長、松谷マネージャー、小島様、その他ご関係者の皆様方に心より感謝致します。

濱口 勝重 (株)村田製作所

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

2014年9月の 入会者紹介

2014年9月25日の理事会において、下記の通り正会員12名、準会員7名、職域会員1名、賛助会員2社2口の入会が承認されました。

(正会員12名) ○寺元 勝弥○石黒

芳樹(プリンス電機)○杉田 悟(デクセリアルズ)○宮内 孝典(三菱重工業)○牛島 康孝(TOTO)○津田一英(東海ゴム工業)○岡崎 哲卓(シャープ)○伊藤 英樹(伊藤英樹技術士事務所)○山田 伊知郎(桃山学院大学)○勝又 大介(日立製作所)○櫻井 征二(サンデン)○清瀧 兼司(森永乳業)

(準会員7名)○奥井 一樹(神戸大学)○大野 麻衣(首都大学東京)○市川 雄一郎・三上 翔平・景山 広樹・小林 徹也(青山学院大学)○荒川 智弘(筑波大学)

(職域会員1名)○坂根 誠(GSユアサ)

(賛助会員2社2口)○アドヴィックス○協豊製作所

正会員：2190名

準会員：72名

職域会員：22名

賛助会員：157社206口

公共会員：20口

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書24」好評発売中

●JSQC選書24 (216ページ)

書名：自工程完結－品質は工程で造りこむ－

著者：佐々木真一

判型等：四六判、並製本

定価：1,600円(税込) → 学会員特典価格：1,280円(税込)

申込方法：ホームページより会員専用注文書をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。E-mailでも受付しています。

http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

申込先：本部事務局 FAX 03-5378-1507 E-mail apply@jsqc.org

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

ANQ総会発表申込み、Total Quality Science 投稿管理システム開設のお知らせ

2015年のANQ総会発表申込みより、下記URLにて発表申込み受付を開始します。

www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270922

申し込みをされる方は、このシステムにて、ANQ総会発表申込み、要旨提出、フルペーパーを提出していただきます。提出物などは、2014年までとほとんど同じですが、今まで電子メールで提出していたものを、このシステムにて提出する点が異なります。

またTotal Quality Science誌への投稿、管理（査読）もこのシステムで行います。この英文電子ジャーナルでは、ANQの年次総会における優れた研究発表をもとに、加筆、

修正、審査を経たものを、論文として掲載します。

本年開催されるANQ Congress 2015 Taipei での発表申込みに関連する予定は次のとおりです。

2015年2月9日(月)：発表申込み受付開始

2015年3月5日(木)：発表申込み締切り

2015年4月25日(土)：審査結果伝達予定

2015年5月30日(土)：フルペーパー提出期限

2015年9月23日(水)、24日(木)：ANQ総会

また、ANQ発表が終了した2015年9月以降にTotal Quality Science誌の受付を開始します。詳細は追ってご案内します。

行 事 案 内

●H26年度 PCAPS研究会・QMS-H研究会 成果報告シンポジウム

テーマ：医療への質マネジメントアプローチ
日 時：2015年2月28日(土)10:00～17:30
2015年3月1日(日)9:30～17:00
会 場：東京大学工学部2号館213号室
参加費：無料
詳 細：<http://www.jsqc.org/ja/division/med/iryou.html>

●第93回クオリティトーク（本部）

テーマ：TQM推進の悩み、よろず相談承ります
ゲスト：光藤義郎氏（文化学園大学）
日 時：2015年3月10日(火)18:00～20:30
会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室
定 員：30名

参加費：会員3,500円 非会員4,500円
準会員・一般学生2,500円
(含軽食・当日払い)

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/indexhtml#h270310>

●第379回事業所見学会（本部）

テーマ：(株)コーセーにおける化粧品の品質管理・改善の実際
日 時：2015年3月17日(水)13:00～16:00
見学先：(株)コーセー 狭山事業所
定 員：30名
参加費：会 員3,000円 非 会 員4,500円
準会員2,000円 一般学生2,500円
※当日払い
申込締切：3月11日(水)

申込方法：本部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第152回シンポジウム（本部）

テーマ：未来の品質管理に光をもたらすものは一徹底討論「SQC VS ビッグデータ」
日 時：2015年3月26日(水)10:00～17:05
会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル 地下1階講堂
定 員：130名
申込方法：ホームページからお申し込みできます。
詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/indexhtml#h270326>

●第4回 科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育
日 時：2015年3月28日(土)13:00～17:00
会 場：東京学芸大学C棟 C303教室
定 員：200名
参加費：1,000円（含資料代・当日払い）
詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/indexhtml#h270328>

●第107回研究発表会（本部）発表募集

日 時：2015年5月30日(土)31日(日)
会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル
(1)申込期限
発表申込締切：3月23日(月)
予稿原稿締切：4月24日(金)必着
参加申込締切：5月20日(水)
(2)研究発表・事例発表の申込方法
1月送付の発表申込要領をご覧ください。
(3)参加申込
本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2015年4月～2016年3月（1年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」（様式204-1）をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。
http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html

申込締切：2015年3月25日(水)必着

研究会の申請と運営：

- 研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界・産業界）を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。
- 研究目的と年間の研究活動計画を作成する。
- 1研究会のメンバーは20人までとする。
- 会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。
- 時間は18時～20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。
- 研究会運営費は一人1回当たり1,150円（内訳：通信費・資料代・食事代）。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
本 部：FAX 03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org